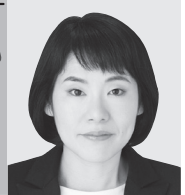
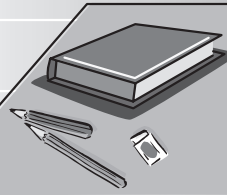


学生時代と図書館 110

「世界を広げてくれた文献複写サービス」

安田圭奈江



全国の図書館が行っている主要なサービスのひとつに「文献複写サービス」があります。その図書館に所蔵されていない論文や書籍のコピーを他の図書館から取り寄せるサービスで、国内の図書館はもちろん、海外の図書館からもコピーを取り寄せることができます。私はこのサービスで多くの文献を読むことができましたし、その経験を通して自分のやりたいことを見つけることもできました。

私が文献複写サービスについて知ったのは、卒業論文のテーマを考えていた時に読んだ1冊の本がきっかけでした。国内外の環境問題について取り扱っている本で、そこには私の出身地において明治時代に発生した環境問題について書かれた一節がありました。その問題はすでに解決していて、私も地域の歴史教育を通して環境汚染があったことだけは知っていました。本のなかではわずか十数ページの記述でしたが、自分が長年その地に住んでいながらほとんど関心を持たなかった、かつての環境問題を調べて本に記している人がいることに私は驚きました。そして、その環境問題について関心を持っている人が他にもいるならば、どんなことを考えているのかを知りたいと思ったのです。

こうして文献を探し始めましたが、当時は文献の検索方法を知らなかったので、インターネットで思いつくキーワードを検索することしかできず、期待する情報は全然見つかりません。大学の図書館の蔵書検索（OPAC）も検索しましたが、蔵書の少ない図書館だったので、関係のありそうな書籍ですらありません。パソコンを使って得られる情報の限界を感じたとき、図書館の相談カウンターに「研究のこと、なんでもご相談ください」と書かれた看板があったことをふと思い出しました。

それまで図書館にはマンガや雑誌を読むため

に行くことが多く、図書館の相談カウンターには一度も訪れたことがありませんでした。そんな私が研究の相談なんて身分不相応だと思ったのですが、勇気を出して相談してみると図書館員の方はデータベースを使っていくつかの論文を検索し、それらを入手するための手段として文献複写サービスを提案してくれました。他の図書館から文献を取り寄せることなど考えてもいなかった私はその提案に感謝し、その場で複写依頼の申し込みをしました。

数日後、資料到着の連絡を受けて図書館のカウンターに行くと、いくつかの文献のコピーが手渡されました。そこには自分では見つけることのできなかつた新しい情報が書かれていて、自分の知識が一気に増えたように感じました。図書館を通して自分はもっと成長できるのではないか、そう思い込んだ私は、入手した文献にある参考文献リストを確認してはまだ読んでいない文献を複写依頼することを繰り返していくようになったのです。

コピーと一緒に手渡される封筒も楽しみの一つでした。複写依頼した文献は、それをコピーした図書館の封筒が届きます。封筒に印刷された行ったことのない図書館の名前を見るたびに、その図書館の書架で文献を選んでいるような気分になりました。

そうして入手した文献を読んでいくうちに、私は自分が感じたことや考えたことを文章に書いて人に伝える面白さに気が付き、それを続けることができる進路を選択しました。図書館に通いつめる前は自分が知っている世界は小さいものでしたが、その世界を広げていくのはマンガや雑誌を読むよりもずっと楽しいのだということを知り、文献複写サービスが教えてくれました。

やすだ かなえ（講師・経営学、環境政策）